
初冬のオーディナリー。

ふるあたま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初冬のオーディナリー。

【Nコード】

N21480

【作者名】

ふるあたま

【あらすじ】

頭がおかしくなったかもしれない。

いつも通りに、耳に噛みついてきた目覚まし時計を剥がしながら、不快なうなり声を上げてふかふかのベッドから背中を別れさせる。

部屋の戸を控えめに叩いているのは執事だろう。ドアを開けると、背広を着たアルパカが、胴体が特別伸びたモルモットを手渡してきた。

そうか、もう冬か、と思った。二階にあるこの部屋の窓から見える庭師のキリンも、暖かそうなタートルネックを着込んで庭の状態を点検していた。少し出っ張っている部分があれば食べて、とむしやむしや隈無く見て回っている。

それならば会計士の熊が、そろそろ冷蔵庫泥棒をして姿を眩ますかもしれない。まあそれだけの働きをしているから、毎年目を瞑っている。それに彼が行方知れずから帰ってくると、それが春の合図にもなつて屋敷が明るくなるから。

受け取ったモルモットを首に巻いて部屋から出ると、廊下は冷え切っていた。寒い、寒い。モルモットが「おはようございます」と言うので、頭を優しく撫でてあげた。

空気がちかちかと光るくらいに冷たい。廊下の先では、給仕として働いているハリネズミ夫妻が、暖を取ろうとくっつくこうとするけれど、互いの針で近づけないという古典的なジレンマを繰り返している。

妙案が浮かんだ僕は、横を通り過ぎる際に「正面からハグすれば良いんじゃないかな」と声をかけた。すると夫妻は顔を赤らめて、「いえいえそんな」と二人同時に手を振った。

手すりに絡まる蛇を撫でながら欠伸。階段を降りて食堂に向かったら、魚料理が並んでいた。そうか今日はペリカンがコックか、と思いつながら、アルパカが引いてくれたイスに座ってモルモットを預け、おいしい朝食を平らげた。

アルパカが用意したスーツに袖を通して、上からコートを羽織る。茶色のマフラーを巻いて帽子を被れば、日課の散歩の準備は完了だ。屋敷から出て馬車に乗り、広い庭を突っ切って、敷地の門に着いた。外に出るときは馬車から降りる。

目の前を、洒落たステッキをつきながら歩く革靴を履いた猫さんは、この町の不動産屋だ。会釈をくれたので、会釈を返す。

「寒いですね」と話しかけてみると、「こたつに籠もりたい時期ですな」と粹な返事が返ってきた。

僕と同じ格好をした猫さんも、散歩を日課にしている。こうして朝に会った日は、途中まで一緒に歩くのだ。

冷えた空気は身を引き締める。歩くたびに割れそうな音がなる石の地面も、きつと凍えているだろう。

革靴を履いた猫さんと談笑していると、向こうから山羊さんが自転車に乗ってきた。郵便配達だろう。赤い帽子を被った白山羊さん。「こんにちは、山羊さん」僕が声をかけると、革靴を履いた猫さんも帽子を上げて、軽くお辞儀する。山羊さんは、「いやー、参りましたよ」と囁れた声で言った。

「狼さんに、捕まっちゃいました」

「ああ、狼さん」と、革靴を履いた猫さん。「またナンパですか」「ええ、恥ずかしながら。では、追ってくるかもしれないので」

山羊さんは職務を全うするべくペダルをこぎ始めた。僕と革靴を履いた猫さんが声を揃えて「お気をつけて！」と労うと、ちりん、ちりん、自転車のベルを鳴らして返してくれた。

それからしばらくは、革靴を履いた猫さんと他愛もない話をする。熊さんが冬ごもりの支度を始めるかもしれない、という猫さんのコックはペリカンだから、今晚も魚料理かもしれない。帰ったら聞いてみて、もしそうなら革靴を履いた猫さんを招待しようと思っ

しかしその話をすると、革靴を履いた猫さんのお孫さんが元気に育っていて、今日も遊びに来るそう。四つ子だからとても賑やかになるらしい。それならみんな呼びますよと言ったら、「是非とも行かせていただきます」と破顔した。

「そういう暖かい話が身に染みますな」

と猫さんがステッキを鳴らす。

「冬ですから」

そういう話が、必要なんです。冬ですから。来年の春までみんなで温い気持ちでいましょうよ。

「そうですね」

「そうですね」

これが今年の、冬の始まり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2148o/>

初冬のオーディナリー。

2010年10月9日22時04分発行